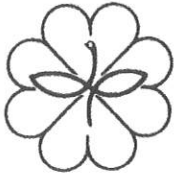


みんなの堺

第 55 号

発行 平成26年12月
堺市民生委員会
発行 児童委員連合会
住所 堺市堺区南瓦町2番1号
電話 072-232-5420
発行 堺市民生委員会
責任者 児童委員連合会
会長 中村孝二



支え合う心で広がる福祉の輪

特集:やってよかった民生・児童委員活動



堺市立健康福祉プラザ

障がい者の地域生活を総合的に支援する拠点施設として、平成24年4月にオープン。健康福祉センター、重症心身障がい者(児)支援センター、子ども相談所、障がい者更生相談所、こころの健康センターからなる。(堺区旭ヶ丘中町)

まずは“あいさつ”から

近年核家族や地域における人間関係の希薄化などにより人とのつながりが少なくなり孤立死や虐待という悲しい事案が後をたちません。

私たち民生・児童委員は、地域のつながりを常に考え行動しています。つながりは、まず家族間の朝のあいさつに始まり、向こう三軒両隣そして地域へと広げていけたらと思います。あいさつは、人としての基本です。あいさつをすることによって信頼関係が生じ、少しの様子の変化にも気づき、専門機関に

つながったという事例も多々あるでしょう。その人がその人らしく地域で安心して生活ができることが一番ではないかと思います。

“なにげなく” “それとなく” “さりげなく” 相手に寄り添い活動することの大切さを実感しています。

おごることなく民生・児童委員としての自分の立ち位置を確認しながら活動することが大切であると思います。

連合会副会長 中辻 さつ子



就任のごあいさつ

堺市社会福祉協議会

会長 **森口 巖**



この度、平成26年10月20日付で堺市社会福祉協議会会長に就任いたしました森口でございます。

平素は、堺市社会福祉協議会の運営ならびに地域福祉を支える重要な財源としての特別賛助会費など、多大なご協力をいただき厚くお礼申し上げます。また、地域住民の方々や援助を必要とされる方々の身近な良き相談相手としての民生委員児童委員の皆様のご活動に対し、深く感謝申し上げます。

急速に進む少子高齢化のなか、家庭や地域の環境変化・支援の拒否等ともなう「社会的孤立」、経済構造や雇用の変容による「生活困窮」など、既存の枠組みだけでは、十分に対応できない

相談・課題が皆様方の周りで多く寄せられているのではないのでしょうか。

社会福祉協議会といたしましても、多様化するこれらの課題に対応する1つの事業として、今年6月に堺市から「生活困窮者自立促進支援モデル事業」を受託し、堺市生活仕事・応援センター「すてっぷ・堺」を開設いたしました。当センターでは、くらしの困りごと、仕事の悩みを抱えた方の相談をお受けし、個別のケースに合わせた「伴走型の支援」をめざし、ご本人が自立できるよう相談支援を進めています。

昨今、民生委員児童委員の皆様をはじめ、地域の方々による地域ぐるみでの生活困窮者支援や災害時の要援護者支援の活動が、「ご近所さん」だからこそできる取り組みとして、ますますその重要性が再認識されています。皆様方におかれましては、時節柄、より一層ご自愛いただき、引き続き地域福祉活動の推進につきまして、ご支援、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



堺市社会福祉協議会における「天・地・人」

堺市社会福祉協議会 常務理事・事務局長 **井口 利喜夫**

昔から「天の時・地の利・人の和」この三つの要素が重なれば、戦いに勝利することができるといわれています。平成27年より、高齢者、障がい者、子どもに関わる制度が大きく変化するとともに、いわゆる生活困窮者に対する自立相談事業が本格実施されます。

この大きな流れは、まさに堺市社協の今後にかかわる課題です。この「天の時」に対して堺市社協における「地の利」「人の和」について考えてみたいと思います。昭和44年度より校区活動に取り組み、民生委員児童委員、校区自治会、校区福祉委員の皆様方と手を取りあって現在では全校区で地域活動に取り組み、大きな実績をあげているところです。「人の和」に

ついては、地域活動を通じた皆様方との連携にあわせ、基幹型包括支援センター活動の中で、医療、介護事業者、地域との連携をはかってまいりました。併わせて堺市とも共同で地域福祉計画（堺あったかぬくもりプラン3）を策定するなど良好な関係を保ってまいりました。まさにオール堺で「人の和」が出来つつあると思います。

堺市社協として、大きく変化する時代（福祉）を「天の時」としてとらえ、皆様方と共に培ってきた地域活動を「地の利」「人の和」ととらえ一層の前進を目指してまいりますので、今後ともご支援、ご協力よろしく申し上げます。

政令指定都市の民児連が堺に集結!

「平成26年度 指定都市社協・民児連連絡協議会」が、平成26年7月24日・25日の二日間にわたり、ホテル・アゴラ リージェンシー堺で開催され、20市全ての政令指定都市より144名が参加されました。当日は、厚生労働省をはじめ、全国民生委員児童委員連合会(全民児連)、全国社会福祉協議会(全社協)、堺市長、堺市議会議長等、多数の来賓の皆様にご出席いただきました。

一日目の前半では、厚生労働省社会・援護局地域福祉課長の金井正人氏より「地域福祉・生活困窮者支援の今後の展望について」と題したご講演をいただきました。

また、後半は2つの分科会に分かれ、①「生活困窮者自立支援に関する民生委員・児童委員の関わりについて(共通)」②「地域における孤立・孤独防止に関わる見守り・支援ネットワークの推進について(第一分科会)」③「研修会の実施について(第二分科会)」という3つのテーマについて、活発な議論が行われました。

①②に共通することは、普段の情報共有や、関係会議等を通じた行政・専門機関との連携や、地域内での連携・情報共有が不可欠であること、身近な相

談相手として、困った時に相談しやすいよう“数居”を下げておくことの重要性が話されました。また、民生委員児童委員以外の見守りボランティアと連携した活動が、地域全体での重層的な見守り活動につながり、担い手不足の中で民生委員児童委員の負担の軽減にもつながるとのご意見もありました。③については、専門的な話だけでなく、グループワークや懇談会など参加体験型の研修等を通して、課題への理解や考えを深めていくこと。そして活動上の成果や悩みなど、日頃の思いを共有する場の設定などが必要であるという意見が出されました。また一方で、民生委員の力量を高めていかないといけないという状況がある一方で、委員のなり手不足という現状も考慮し、研修漬けで委員の負担感が高まりすぎないように配慮が必要であるという課題も指摘されました。

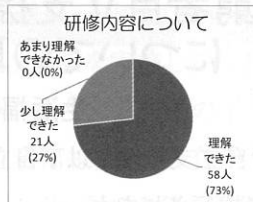
二日目は、前日の各分科会の議論を全体で共有し、また、他市よりお越しの皆様にも、お茶席の体験や、仁徳天皇陵古墳及び堺刃物ミュージアムの見学など、堺の文化の一端に触れていただきました。今回の堺での開催を機に、同じ政令指定都市の民児連として、より一層の連携を行うとともに、今後も活動状況を共有し、切磋琢磨していければと思います。

(連合会副会長 加納 剛)

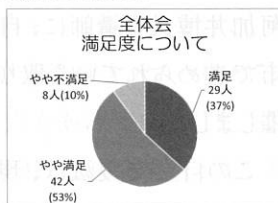
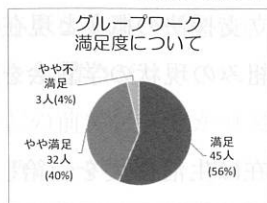
委員長研修会を9月19日(金)に実施した。

1. 研修について

第1部 身近な人権問題への気づきを高めるために



第2部 これからの元気な民生委員児童委員活動のヒントを探ろう!
~みんなの疑問にみんなで答える!~



委員長研修会アンケートの結果

2. 今後、研修で取り上げてほしいテーマ・要望

<テーマ>

- ・今起きている喫緊の課題(徘徊認知症、災害時要支援者への対応など)に対する具体的な対処についての研修
- ・生活困窮者対策と生活・仕事支援センターの取り組みについて
- ・委員長の悩みに答える研修を!!
- ・スキルアップを図る研修

<要望>

- ・高齢者が多いと思いますので、もう少し時間を短くしてください (委員長 藤原 利夫)



専門委員会だより

認知症サポーターの 輪を広げよう

高齢者福祉委員会報告

最近の人口調査では65歳以上の高齢者は4人に1人、75歳以上は8人に1人の割合だそうです。特に、認知症人口は増加傾向著しく、平成24年度は462万人、軽度認知症障がい者は約400万人であるとのこと。認知症障がい者に起因するトラブルも増え社会問題化されています。

徘徊症状の91歳男性が電車にはねられ、見守りを怠ったとして、91歳の妻が359万円の賠償を電鉄会社から求められました。7年間行方不明の女性が他県の介護施設に入所中であることが判明、幸いにも費用は行政が負担してくれました。

毎年、行方不明者は1万人にのぼり、社会全体で支えあう対策が急務です。「さかい見守りメール」制度の運用も大切です。高齢者福祉委員会は9月と10月に認知症の勉強会を委員長対象に行いました。ある校区では毎年小学4年生を対象に、今年は中学1年生にもサポーター養成講座を展開します。校区福祉委員約60名も認知症サポーターになったと聞いています。各校区もサポーターの輪を広げ、地域内での見守り活動のさらなる充実を期待しています。

(委員長 藤井 紘一)



委員長研修会より

障がい者と共に学ぶ

障害者福祉委員会報告

障害者福祉委員会では、新メンバーのもと、去る4月15日(火)障がい者福祉サービス事業所You・Iハウスにて、「さかいピアサポネット」の会員との交流会を開催いたしました。(内容は前号掲載)

その折、各委員より活発な意見が飛び交い、今年度は「精神障がい」について、もう少し掘り下げて研修を行いたいとのことで意見がまとまりました。当委員会には、精神障がいについて特に関わりの深い方がおられ、委員会といたしましても、大変助かっております。

今年度第2回目の研修として、去る12月3日(水)午後1時30分より、浅香山病院のデイケアサロンにおいて、対象者との交流、就労ステーションの見学、医療福祉相談室ソーシャルワーカー柏木一恵氏の講演を実施しました。

一口に「障がい者福祉」といっても幅の広いジャンルです。委員会一同、少しずつ研修を重ね、地域に暮らす障がい者の相談や支援に積極的に関わっていきたく思っております。

(副委員長 宮里 眞澄)

生活困窮者自立支援法 についての取り組み

生活福祉委員会報告

生活困窮者自立支援法(以下自立支援法)が平成27年4月に施行されます。

生活福祉委員会では、堺市生活援護管理課主幹阿加井博氏を講師に、自立支援法の概要と現在堺市で進められている取り組みの現状の学習会を開催しました。

この自立支援法は、現在は生活保護を受給していないが、生活保護に至る可能性のある者で自立

が見込まれる者を対象としており、これまで制度の狭間におかれてきた人たちへの支援を拡充するものです。社会の構造的な変化の中で、誰もが生活困窮に至るリスクがあるといわれています。

私たち民生・児童委員も対象者の早期発見、地域での見守り、そして行政へのつなぎなど、自立支援法での役割は重要です。

自立支援法の施行に合わせて3月までには生活福祉委員全体研修会を開催して、制度の周知を図りたいと考えています。また、校区単位での開催が可能かの検討もすすめていきます。

(委員長 梁間 久夫)



一日里親事業に参加して

児童福祉委員会報告

児童養護施設に入所している幼児を対象に毎年児童福祉委員・主任児童委員が一日、親代わりとなって野外活動を通じ、子どもたちの心豊かな成長を願い「一日里親」事業を実施しています。

9月24日バス2台で5施設の子ども33名、施設職員9名、児童福祉委員・主任児童委員36名、行政・社協職員3名、計81名で天保山ハーバービレッジの海遊館へ行ってきました。子どもたちの小さな手が一日里親の手をしっかりとつないで、大きな水槽のジンベイザメや可愛いラッコ、ペンギンなどの前で目を輝かせ歓声をあげていました。お小遣いをいただき、アイスクリームやおもちゃなど買って貰い、精一杯甘えて過した子どもたちにとって

至福の一日だったことと思います。すっかりなついた子どもたちを施設に送り届けるお別れの時は、思わず涙する場面もありました。

里親として子どもたちと過した1日は、私たちにとって子どもの幸せとは何か、親子の関係や社会的責任等あらためて深く考えさせられました。

(委員長 松岡 淳子)

親子のふれあい

主任児童委員会報告

主任児童委員会の通常の活動は各区とも、子どもの見守りが中心ですが、校区の自治会役員や民生・児童委員が実施している地域福祉活動にも参加し協力しています。

子どもに関する諸問題は各区の子育て関係者会議などで、他校区の取り組みを参考にして、自校区ではどのようなことができるか考えて取り組んでいます。

今後は、各区の子育てフォーラムで、アンパンマン体操、ベビー体操、そしてバランスボールを使った遊びなどで、親子のふれあいや参加者の交流を目的としたプログラムを計画しています。50組から80組の参加者を予定しています。

また、講師をお招きして研修会を開催し子育てに関する諸問題、特に児童虐待への理解を深めてもっと踏み込んだ活動ができるよう取り組みます。小中学校や児童福祉委員の方々との連携も大切です。

(委員長 浅田 三男)



特集

やってよかった民生・児童委員活動

私たち、民生・児童委員は住民同士の気づきが難しくなっている地域社会で、支援の必要な住民を発見し、見守り、適切な時期に必要な手立てに繋げる活動をしています。その中で、うれしかったこと、楽しかったことを委員の皆様にお伝えして、誇りの持てる民生・児童委員活動に役立てたい。

楽しい近隣関係

堺区 三宝校区 和田 耕太郎

民生・児童委員の委嘱を受けて8年目になります。自治会の役員を引き受ける以外ボランティア活動に積極的に参加することも無く、まして当委員の活動とは無縁に等しい私でした。前任の方が定年を迎えるとのことで、推薦をいただき不安ながら後任を引き受ける決心をしました。そして自治会役員を兼任しながら今日まで続けて来ました。

初年度は新任研修やセミナーに参加して、福祉活動への取り組みや活動の話は、初めて耳にする内容が多かったのを思い出します。申請手続や訪問調査、関係機関への問い合わせ等が何とかできるようになったのは2年目を迎えてからでした。私が委員を務めていることを知ってもらえるようになって、いろんな方から情報をいただくようになりました。喫茶店の店主から「買い物で通るおじいちゃんが、最近通らんけど」、健康飲料の販売員の方から「昨日の商品がそのままになっている」、夜に帰宅中の男性から家の中からの声の異常を知らせてもらったことなど、大半は大事に至ってないが、救急車に連絡したり、残念な結果もありました。

自治会役員との兼任を少しでも活かせないかと考えて、会合でも、近隣同士のかかわり合いや、ひとり住まいの高齢者、子育てに頑張っているお母さんなど、日常生活で何らかの支援が必要な方へ、近くにいる者同士が少しの異常でも見過さない、良い意味の「おせっかい」な町になって欲しいと願いつつ、各種の「集り」や「サークル」にも参

加して、話しやすい委員でいたいと考えています。

最近では近隣同士の関りが少し増えたと感じているのは、手前味噌かも知れませんが、少しずつでも根付いて欲しいと思っています。

出合いがあって気付くこと

東区 登美丘南校区 高田 誠子

民生・児童委員をお引き受けして、15年になります。高齢者の孤独死、児童虐待と次々と心いたむことが重なり、頭をかかえていた頃だと思えます。

ある日、訪問した高齢者が「この前、こわい顔して歩いてたね。声もかけられなかったわ」とおっしゃいました。その方は、この年までいろいろあったけど、「老醜を見せず、前向きに暮らしていると、自然と柔らかな心になってきて」と今までの^き暮らし方をお話してくださいました。生き方の信念と価値観をきちんと持って生きておられます。また別の高齢の方は、ずいぶんと苦勞のたえない人生を送ってこられたとお聞きしていたのですが、ご本人は「苦勞というレールの上を歩いてきたが、その中にもささやかな良いことがいっぱいあった。私は幸せな人生やったわ」といっておられました。わずかな良いことを幸せと思える心の余裕を教えてくださいました。

心に余裕をもつ、他人を思いやることなど、どこまで近づけるか分かりませんが、ネガティブだった私を反省させてくださった何よりの人生訓だと思っております。口角をあげ、笑顔で気持ちの良いあいさつをする。お互いに心なごむようにと心がけています。

やってよかった民生・児童委員活動

特集

楽しい民生・児童委員

西区 浜寺東校区 西川 久信

私が平成4年に民生・児童委員の委嘱を受けた時は、他の方は3期4期のベテラン委員ばかりでした。年齢差もあり、面識も無く、初会議は緊張の連続でしたが、会議終了後お酒と歌の好きな先輩委員に誘われて、飲んで歌っている内に緊張の糸もだんだん解れてきました。会議では親切に指導していただき、閉会後は飲食が定番になり、お陰で下戸だった私も嗜む程度になりました。

委員会の最大の楽しみは、宿泊旅行でした。1年目と2年目は1泊、3年目は2泊3日の旅行が慣例となっています。旅行中は最年少の私が添乗員になり、日頃の恩返しをさせていただきました。旅館での宴会後部屋で先輩たちの苦勞話や世間話を聞くのも楽しみでした。

もうひとつの楽しみは、毎年小学校からいただく入学式と体育大会の招待状です。新入生の入場行進も可愛いですが、僅か1年でこんなにも成長しているのかと思う歓迎会での2年生の姿を見るとおどろきです。

自分が携わった人たちと元気で挨拶を交わすのが毎日の楽しみになっています。

この道は・・・

南区 新檜尾台校区 森嶋 直子

民生・児童委員になって良かったことは、様々な人を助ける制度を知ったことと、多くの素敵な人に出会えたことです。

相談を受けた時、行政に関わる方が良い支援の方法を模索してくれます。福祉の制度が時代に応じて進んでいることは、とてもありがたく思います。

子育てサロンに来る子どもたちの可愛い笑顔には、いつも癒されています。登校時の小学生の挨拶には、一日分の元気が貰えた気がします。車イスの達人は

パソコンの達人でもあります。脳梗塞のリハビリを乗り越えた方が、絵の展示会をされています。いきいきサロンに来る方はスタッフよりオシャレで、ゲームや体操などを一緒に楽しみ、そして“ありがとう”の言葉で大きな力をくれます。そんな出会いが数えきれない程あります。

いつかきた道、いつかくるかもしれない道、いつかいく道。私の道がどうなっていくのかは分かりませんが、それなりに楽しんで生きていけるように思います。なにしろ、助けて貰う制度を知っただけではなく、人生の素敵なお手本には、ことかかないのですから。

「ありがとう」の笑顔に ささえられて

中区 東陶器校区 西野 則子

「ありがとう」と笑顔で声をかけてくださる瞬間、そして支えてくださる多くの仲間がいることを知り得たことです。

この18年半いろんなことがありました。関係機関の方や委員長と頭をかかえ出口の見えないもどかしさ、力不足を痛感、落ち込みもしました。でも、「ありがとう」と喜んでいただけた時、何もかも忘れよかったと思える瞬間です。

近年ハート事業活動が推進され、立ち上げる一員として携わってきました。そのひとつのふれあい喫茶では、ボランティアの募集、材料器具の調達など近隣校区の皆様にもご助言いただきながらの出発でした。不安で幕開けた初日、大盛況で嬉しい



特集

やってよかった民生・児童委員活動

悲鳴をあげたのが3年前、ご無理をお願いしたボランティアの皆様も今も快く活動してくださっています。喫茶で「久しぶり、元気？」の声が行きかい「ここに来れるのが幸せです」と言ってくださったりと忙しさを忘れさせてくれる何とも言えぬ心地よい瞬間です。

まだまだ田園風景が広がる我が校区のわくわくクラブ(いきいきサロン)は、私の担当地区でも会館新築を機に3ヶ所目として3年前にスタートしました。自治会長はもとよりボランティアとして自ら名乗り出てくださいる方がいたり、地域の繋がりが薄くなっていると取り沙汰されている昨今、多くの支えてくださる仲間への心の温もりに感謝しながら一人でも多くの方と繋がっていけたらと思い微力ながら活動する日々です。

信頼に感謝

北区 西百舌鳥校区 柴田 惇子

「個展をされてはどうですか」
「とんでもない! 自己流ですので・・・」
長く委員活動をしていると、いろいろな方と心豊かな出会いに恵まれる。

ひとり暮らしのAさん(90歳)を月に一度訪問しながら、私自身の老いてゆく道を学ばせてもらっている。最初は何を話題にしようかと少し不安もあったが、それは危惧するに及ばなかった。

感心するAさんの食事の摂り方は、火事を起こしては大変なのでガスは使用せず、朝食はパンと牛乳。昼食と夕食は知り合いの食堂に頼んで少量の定食を作ってもらい外食である。宅配を頼まないのは外の空気を吸って、お店の人たちと言葉を交わりたいからであった。

しかし、気丈なAさんもひとりになると常に不安になり、緊急通報の電話は手の届く所に置いておられる。

そんな毎日の生活での楽しみは毎月の訪問日に

いろいろとお喋りができることだと言われる。

1時間余りの四方山話であるが若い頃から絵を描くのが趣味だと分かり、色紙に毎月、俳句を添えて描いてもらった絵が30枚近くにもなり、冒頭の会話となった次第である。

Aさんに限らず他の皆さんも私が民生・児童委員だからこそ信頼し全てを話してくださることに感謝しながら委員活動を続けている昨今である。

人とのつながりを力に

美原区 美原北校区 光田 雅美

民生・児童委員という大役をお受けした時は、責任の重さに戸惑いましたが、当時(16年前)を振り返りますと、いろいろな人たちに助けられ微力ながらも頑張ってきてよかったと感謝しています。

障がい者の人たちとのキャンプ・クリスマス会・遠足。子育てサロンでは幼児たちとのふれあい。世代間交流では児童たちと一緒におもちゃつき・クリスマスリース作り等。いきいきサロンではボランティアさんの力もかりて、季節にあった手作り作品・楽しく話し合いながらの食事会等。

ひとり暮らしの方々を支援する苦労もありますが、今では子どもたちの方から「おばちゃん」と気軽に声をかけてもらい、高齢者の人たちとは、しばしの井戸端会議。私もいろいろなことを学ばせていただきました。

福祉活動の発展をめざして、もう少しの間、頑張りたいと思います。



自分たちも楽しんでます ～校区のボランティア活動～

東区 登美丘西校区 小池 順子

3年前にボランティアビューローとして立ち上げた校区地域会館で開催するふれあい喫茶「サロン・さくら」は、みんなが楽しみながら交流を図るサロンです。相談・情報コーナーも同時開設し、民生・児童委員が常駐しています。

私たちの校区の大きな特色は、サロンの運営構成団体に民生・児童委員、青少年指導委員、更生保護女性会、VOグループ菜の花会の約40名がスタッフ登録しています。各団体から2～3名、計10名が毎週土曜日にスタッフとして活動しますので、月に一度の出番はあまり負担を感じません。

サロンを開くまでは殆んど交流のなかった各団体ですが、このサロンのおかげで知り合いも増え仲良くなり、他の団体主催の行事にもお互いが積極的に手伝いに行くようになって交流が深まりま

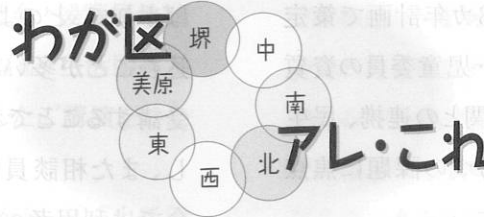


した。(手伝いに行っているのか自分たちが楽しみに行っているのか、分かりませんが・・・)この運営のやり方は他の校区の方々からも羨ましがられています。

福祉委員会活動の独居高齢者の会、子育て支援、世代間交流、登校指導、お元気ですか訪問等、ひと声かければ皆が

参加してくれます。

ボランティアの人数は多ければ多いほどひとりあたりの負担も少なくなり、多様な活動が可能になります。負担を感じない程度で皆が楽しく活動できる民生・児童委員でありたいと願っています。



元気な民生・児童委員活動

研修・広報委員会報告

委員長研修会を9月19日(金)に実施した。

(1) 講義

「身近な人権問題への気づきを高めるために」
講師：堺市人権推進課 課長 西田 英之氏

(2) 講演とグループワーク

「これからの元気な民生委員児童委員活動のヒントを探ろう!～みんなの疑問にみんなで答える!?!～」講師：川島 憲志氏(フリーランス)

<研修の3つのねらい>

1. 探る：日頃の活動で抱えている疑問、質問を共有するとともに、みんなの知恵で答えをわかちあい、これからの活動に役立つヒントを探る。
2. つながる：参加者それぞれの知恵のわかちあいを通じ、共に活動を担っていく仲間としてつながる。
3. やる気になる：活動のヒントを手に入れる。みなさんのやる気に触れることを通じ、エネルギー

を高め、やる気になる。

<全体会で話題になった主な事項>

- (1) 新任委員選出の仕方や見つけ方
- (2) 災害時要援護者支援の校区の支援体制
- (3) 委員によって過重負担のでない活動の仕方
- (4) 認知症の発見の仕方や対応の仕方

<参加者の感想から>

- ・計画を見ると、研修時間が長く不安があった。始まるとスケジュールが綿密にきめ細かく工夫されしかも、講師の一方的な話だけでなく、参加者の意見も多く聞けたので、楽しく参加できた。
- ・少人数グループでの話し合いだったので、発言の機会も多く、自分が納得のできるまで、議論に参加することができた。
- ・今年はいじめて委員長になって、研修に参加した。グループワークで、他の校区の活動の様子や悩みを詳しく聞けたので、自分の校区の良さがよくわかり、日頃抱えている悩みを解決するためのヒントも多く聞いてよかった。(委員長 藤原 利夫)

進化を求めて

総務委員会報告

個人や世帯を取り巻く環境が大きく変化する中、将来への不安やさまざまな生活課題をかかえる人々が急増しています。住民の身近にあってきめ細かな相談、支援を行う民生・児童委員には、それらの人の社会的な孤立を防ぐための取り組みや生活困窮者への支援等に大きな期待が寄せられています。

総務委員会においても第4次3カ年計画で策定された各項目の中でも特に、民生・児童委員の資質の向上に関する取り組み、関係機関との連携、民生委員児童委員大会の運営という3つの課題に焦点をあて進めてまいりたいと思います。

第1目標の資質の向上については、多様化する民生・児童委員活動にあって、他の組織との協働が必要とされる中、民生・児童委員としての立場を守りながら活動できる研修を行う。

第2目標の関係機関との連携は、複雑化する民生・児童委員活動特に、認知症問題、精神障がい者支援問題は民生・児童委員と関係機関との連携をより密にする必要がある。

第3目標の民生委員児童委員大会の運営については、マンネリにならない民生・児童委員独自の大会をめざして、地味な活動の中にも進化を求め一步一步の歩みを心がけます。

(委員長 寺田 明男)

試行錯誤しながらも日々前進

介護相談員連絡会報告

平成26年度の介護相談員の施設訪問活動が5月から始まりました。堺市では、月2回の訪問活動と月1回の連絡会議を開催しています。連絡会議では相談員が各施設での活動報告を行い、それぞれの課題をもとに、工夫をしながら次の活動に役立てています。



今年度は新しく7名が介護相談員として委嘱されました。新任介護相談員にとっては初めてのことばかりで、どのように声かけをしたら良いのか考え込むことが多いようでしたが、大阪府の研修を受講することで利用者とのかかわり方などを勉強し、また相談員同士でコミュニケーションを図り、今では利用者への声かけや傾聴にも自信を持って対応できるようになりました。試行錯誤しながらも日々前進しています。

また、10月からは後期の施設訪問活動が始まりました。高齢化社会がますます進む中、少しでも手助けができるように、無理のない活動を心がけたいと思います。

(担当理事 寺田 民子)



義母の顔

金岡南校区 井上 順子

初秋のある日、義母の入所先にいつものように会いに行った。「順ちゃんが来ましたよ。千代子さんとお話しをしに順ちゃんが来ましたよ。」と言いながら手をとって目を合わす。にっこり笑って「順ちゃん、順ちゃん」と2度程つづけて繰り返し呼んでく

れた。母はグループホームにお世話になって3年、それから特養に移ってまだ間もないのだが、認知症も重くなり自分のことが解らない状態のこの頃を過している。

嫁いでから苦しかったこと、つらかったことも沢山あったが、(母が認知症じゃあないか…)と思った頃より正直大変でした。私が介護鬱になりかけたので、母の主治医、夫や家族のすすめもあり、やっと決断して施設にお願いしました。その時母は淋しそうな顔をして「帰る」と言ったのを思い出します。ただ笑って私を迎えてくれる今でもこれで良かったのかと思う。「お母さんごめんね。大好きな家で暮せないで」。

窓のそばに車いすを近づけて一緒に外を見るとききれいな夕陽が空をそめていた。そと母の肩を抱きしめると横顔が優しい穏やかな表情になっていた。

石の上にも3年!

美原西校区 松本 慶子

石の上にも3年とは、よく言ったものです。民生・児童委員として3年目の終わり頃、訪問先のおふたりの方から、相前後して「あがって話して行って」とのお声をいただきました。また4年目に入ったある日、3年間一度もお顔を拝見できず、門扉のインターホン越しの声かけでしたが、「門を開けて入ってきて!」それから時を経ず、リビングでお話しをするまでになっていました。

見守り訪問のなかで、この3名の方々の“待っていたよ”の親しみの笑顔をいただけたことは、本当に嬉しいものでした。この喜びが、民生・児童委員としての活動の原動力になっています。



安産

深井校区 吉村 多加司

朝一番のメール。こんなに早く誰かと思えば昨年結婚した娘婿からで、「理恵が少し陣痛が始ってきました」との連絡。家内に「二、三日かなあー」と言いますと、「何言うてんの。今日中に生まれる」と聞き、あわてて娘に「がんばれ」と電話をする親バカな私であります。数時間後に「病院で診察をしてもらい、そのまま出産するそうです」とメールが届く。しばらくして「無事出産しました」とのこと。あつという間のできごと。助産師さんが、こんな軽い安産を見たことが無いといていたそうで、出産準備中に20分程で生まれたそうです。

天然自然の素晴らしい、はたらきに感謝です。無事出産し育児奮闘中の新米お母ちゃんは、最初の頃、赤ちゃんが「朝起きない、泣かない」と大騒ぎ、数日後は反対に「夜寝ない、よく泣く」とまた心配。「子を育て初めて分かる親心」と昔の人は上手くいったものです。

私も娘の出産でいろいろと学びました。人は皆、夫婦の中に生まれ、^と十月十日で丈夫な身体を創っていただき、この世に出していただき、親に育てていただく。成人して、今度は子どもを^と与えていただき、育てさせていただく。多くのものをいただき、そのご恩を多くの人に返して、人と人のつながりの有難さを感じる。それを幸せと思うのでは…。

皆さんの自由投稿 お待ちしています

エッセイ、川柳、短歌、俳句、など日常の感慨や貴重な体験談を、また民生委員児童委員連合会にたいするご意見やご質問などお寄せください。

みんじれん堺 編集委員会

「さかい見守りメール」 ～認知症の方への新たな取組みから～

堺市高齢施策推進課 参事 今津 弘子

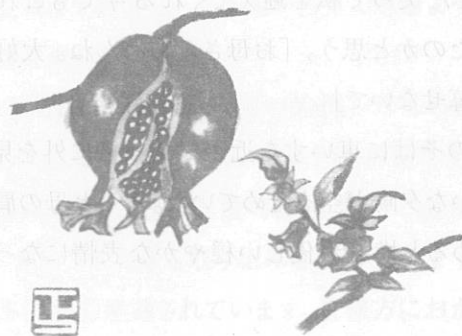
本市の高齢化率は、現在の25.4%から平成37年には26.9%と推計されます。さらに、高齢者の中で75歳以上の後期高齢者が占める割合は、現在の42.8%から平成37年には61.7%になることが予測されています。

また、認知症のため日常生活に見守りや介護を要すると判定（認知症高齢者 日常生活自立度Ⅱ以上）を受けた高齢者数は、平成26年9月末現在で19,724人と、介護保険認定者約46,000人の4割を占めており、年々増えています。

このような中、認知症で行方不明になった方を、警察、消防、堺市、地域が協力して早期発見につなげる「さかい見守りメール」を9月1日から開始しました。

まず、認知症で徘徊の恐れがあると思われる方の氏名や身体的特徴などをご本人やご家族などが市に登録申請を行い、万一、登録された方が徘徊で行方不明になった場合は、市から協力者へメール等を配信し、早期発見につなげていくものです。

この取組みを実効性のあるものにするためには、一人でも多くの方に「さかい見守りメール」にご登録いただくと同時に、民生委員児童委員をはじめ多くの方との連携・協力のもと、市内にきめ細やかな支援の輪を広げていくことが大切と考えております。



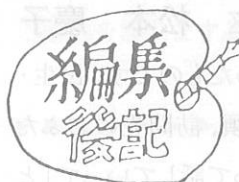
森副会長を悼む

10月9日早朝、森副会長が他界されました。昭和55年12月以来35年間民生・児童委員として社会奉仕の精神をもって委員活動に精励され、平成19年12月より民児連副会長として、的確なアドバイスとリーダーシップを発揮され、堺市民児連の発展にご尽力されました。

心より、ご冥福をお祈りいたします。

御霊よ安らかに

- | | |
|-----------------------|---------|
| H26. 5.25没 英彰校区 | 森中 正人 様 |
| H26. 7. 5没 湊校区 | 井阪 ノエ 様 |
| H26. 7.28没 中百舌鳥校区 | 松岡 次郎 様 |
| H26. 8. 9没 登美丘南校区(参与) | 岡本 一郎 様 |
| H26.10. 9没 日置荘校区 | 森 強次 様 |



今年の夏は異常気象で、集中豪雨による災害が各地で発生し広島などで多くの犠牲者が出ました。

「明日は我が身」と言われますが私たちも災害への備えを怠ってはなりません。

災害時要援護者支援の取り組みは始まったばかりですが、地域の実情にそった取り組みが求められています。日常の要支援者への寄り添いが迅速な対応に何より大切なこと、改めて痛感しています。

今回の特集記事は「やってよかった民生・児童委員活動」です。民生・児童委員の方々が地域の皆様に親しまれ信頼されてご活躍の様子が目に浮かびます。

ご寄稿いただきました皆様ありがとうございます。

「みんじれん堺」は民生・児童委員の皆様の活動に役立ち、読みたい紙面になるように頑張っています。今後ともご意見・ご要望をお待ちしています。

(坂本 益輝)